

学 位 論 文 要 旨

氏 名 尾関 美和

題 目 知的障害を伴うASD児の社会性コミュニケーションの習得における  
ムーブメント教育の効果に関する研究

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本論文は、ムーブメント教育の理論を用いた実践が、ASD (Autism Spectrum Disorder) 児の「社会性コミュニケーション」の発達にどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的としたものである。本研究の独自性は、ムーブメント教育の実践を通して生じるASD児の変化を、発話や応答といった行動指標に限定せず、「人と同じ活動に関わる」身体を介した経験の蓄積として検討した点にある。

近年の特別支援教育の現場では、多様なニーズに対応する実践が求められている。一方で、従来の支援は学習や生活技能の獲得を目的とした個別指導が中心であり、集団活動を基盤とした支援や社会性の発達過程に焦点を当てた研究は十分とはいえない。そこで本論文では、身体活動を媒介として発達を支援するムーブメント教育に着目し、ASD児の「社会性コミュニケーション」の変化を多面的に検討するとともに、その発達支援に関する示唆を得た。

第1章では、研究の背景と問題を整理するとともに、ムーブメント教育の概念および用語の定義を示した。本論文では、「社会性コミュニケーション」を、社会性の発達を基盤とし、他者との相互関係、共同的活動、情緒共有、役割理解などを含む、人としての発達過程の中で捉えられるコミュニケーション能力であると位置づけた。

第2章では、現在の特別支援教育の状況を概観し、ASD児の障害特性について、APA (2013) に基づく医学的視点を踏まえて整理した。あわせて、これまでのASD児への支援が個別支援中心であった点に触れ、集団活動を基盤とした発達支援の必要性と今後の課題について検討した。

第3章では、ムーブメント教育の理論を用いた実践研究（研究1～研究4）を通して、ASD児の身体活動を介した社会性コミュニケーションの発達について考察した。研究1では、ムーブメント教室において、ASD児が活動に参加する経験そのものが、他者と同じ活動に関わるための基礎的な経験となっていることが示された。社会性コミュニケーションは、発話や応答の有無のみによって捉えられるものではなく、活動の場にとどまり、他者と経験を共有しようとする行動として捉えられることが示された。一方で、活動構造や環境の変化が大きい場面では自己調整が困難となる様子もみられ、社会性コミュニケーションが状況や環境条件に依存する側面をもつことも示された。研究2および研究3では、学校における体育の授業を学習場面として、ASD児を含む児童の集団活動への参加の変化を検討した。その結果、当初は集団の流れから逸脱する様子がみられた児童においても、授業を重ねる中

で、集団活動への参加や参加を試みる行動が確認され、身体活動を介した経験が社会的関わりを支える一要素となり得ることが示唆された。研究4では、ムーブメント活動への参加を約8か月間継続してビデオ分析した結果、周囲の動きに歩調や身体の向きを合わせようとする行動が増加する過程が確認された。以上により、研究1～4を通して、ASD児の社会性コミュニケーションは、ムーブメント活動を介した他者との関わりでの経験の蓄積によって質的に変容し得ることが示された。

第4章では、ムーブメント教育の実践が、支援者（教員）および保護者に与える心理的影響について、これまでの研究および調査結果をもとに整理した。ムーブメント教育を通じた児童の変化は、支援者（教員）や保護者の児童理解の変容や、教育実践への肯定的な意識の形成にも影響を与える可能性が示された。

第5章では、知的障害特別支援学校におけるムーブメント教育の実践可能性について、教員を対象としたアンケート調査（研究5）を通して検討した。その結果、ムーブメント教育は、自立活動、体育（保健体育）、音楽、生活単元学習など、複数の教科等において実践可能であると教員に認識されていることが明らかとなった。これは、ムーブメント教育が身体運動を基盤とする活動を通して、感覚・認知・社会性を統合的に働かせる学習経験を提供でき、その特性が各教科等の目標と接続可能であると捉えられていることによるものと考えられる。あわせて、学校現場における実践を推進するためには、具体的な実践のステップを明確にする必要性を示した。

第6章では、これまでの研究成果を総括し、ムーブメント教育がASD児の社会性コミュニケーションの発達にどのように寄与し得るのかについて検討した。

以上の結果から、ムーブメント教育はASD児の運動技能の向上にとどまらず、安心できる関係性の中で身体を通して他者と関わる経験を保障することにより、社会性コミュニケーションの発達を支える有効な教育的実践であることが示唆された。本研究は、ASD児の社会性支援を身体活動の視点から捉え直し、特別支援教育における授業実践の可能性を広げるものであり、今後の教育実践および研究への示唆を提供するものである。